

KU WanderVogel

名 峰 白 山
南 竜 ケ 馬 場

2014 年
7/28~7/30

ヤマジイージ 元気はつらつ 名峰白山を歩む

ヒント《昭和 21 年生れが最も若い。10 名の高齢者グループ》
このヒントから、何を想像しますか。

- ー 町内会の敬老会に招かれたおじいちゃん・おばあちゃん
- ー デイサービスの送迎バスで静かにしている要介護者と、答えるのが一般的解答かな。でも今回に限っては、的外れ。正解は、《白山を元気に登る KUWV・OB グループ》

名峰白山の登山道を、立派な登山靴をはき、カラフルな最近のザックを背負い（キスリングではありません）、全員が整然と統制のとれた隊列を組み、元気に歩く山仲間グループだ。その後姿は、日頃から訓練されたどこかの現役山岳会を思わせる。

ザックをおろし、腰を下ろし、水で一息つく顔を覗き込むと、その正体はヤマジイージ（山爺）。この顔は、町内会の敬老会やデイサービスのバスの中でも似合う年代。だが実態は、《元気はつらつのヤマジイージ集団》だ。

彼らを正面からとらえた写真（下）で見れば、50 年前の紅顔の美少年達も、白山のハイマツのように、永年の風雪に耐えた顔つきに変貌しているね（正しくは、成長しているね）。



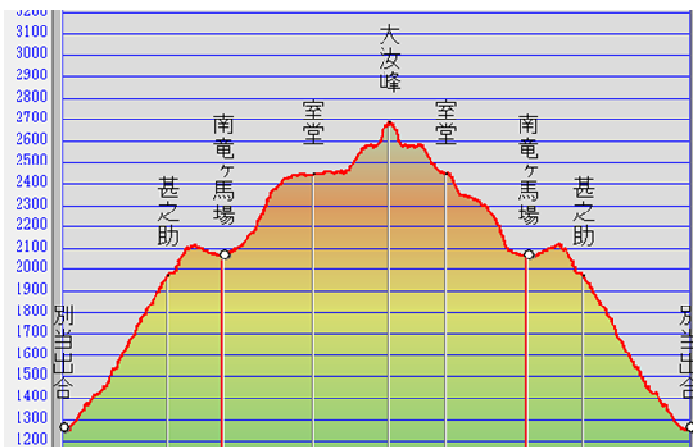
室堂と別山



ウソ 7.28 at 南竜

(この行程図は、二日目に大汝峰のコースを歩いたグループの三日間の行程図である。)

行程高低図



累積標高差+	895m	679m	86m
累積標高差-	86m	679m	895m
距離	4.7km	8.8km	4.7km
	第1日	第2日	第3日

右の写真は、最終日の下山途中で撮ったもの。みなさん、天気にも恵まれ、3日間の白山南竜 PW を十分に楽しみ、満足した感じだ。

その楽しかった PW の様子を次ページ以降に記載。その状況が的確に伝えられるかどうか心配だ。

満足な顔で下山



行程概略

7月28日(月) 晴

別当出合→南竜ヶ馬場(泊)

・各自自由に南竜に集合

①午前派：合津・山村

伊藤・白井

②午後派：穴田・伊豫

吉田・島林・鍋島

7月29日(火) 晴

ワンデリング(自由行動)

・各自が希望コースを設定選択

・3グループに分かれる

①大汝組(早出組)

山村 鍋島

②大汝組 残り全員

③別山組 島林

・吉田下山 山中合流

7月30日(水) 晴

南竜ヶ馬場→別当出合

全員一緒に下山

参加者 10名

(敬称略)

(前頁写真 前列左から)

①伊藤俊成 9期

(PW 幹事長)

②島林仁司 10期

③山村嘉一 8期

④合津 尚 6期

(前頁写真 後列左から)

⑤穴田昭一 8期

⑥鍋島 武 9期

(記録・報告担当)

⑦白井 勇 9期

⑧伊豫欣二 8期

⑨山中重夫 9期

(前頁写真 右窓)

⑩吉田幸造 9期

写真提供者(敬称略)

山村嘉一 穴田昭一

伊藤俊成 島林仁司 鍋島武

誠に貴重な写真をご提供いただき、感謝申し上げます。写真一枚一枚に、撮影者を明記すべきですが、ご容赦願います。

第1幕

見上げてごらん 夜の星を



「あっ 流れ星だ」

「あれが北斗七星」

「天の川を見るのも久しぶりだ」

「北斗七星のひしゃくの先端部分の長さの 5 倍くらい先に、北極星が見つかるよ」

「こんな素晴らしい星空は、いつ以来からだろうかな」

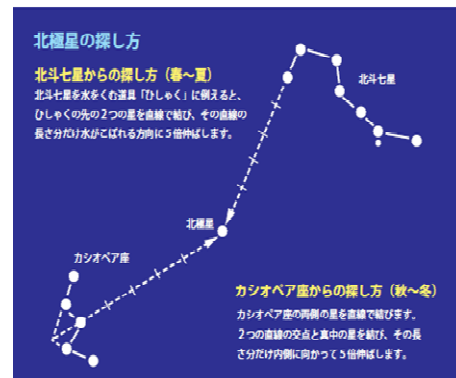
南竜馬場ヶ原の夜は足元を照らすものもなく真暗闇。わずかに吹いている風音以外は何も聞こえず、まさに静寂の世界。

眼を空に転ずれば、満天の星。

平素は野暮な KUWV/OB の山男達も、この南竜にたたずみ、星空を見上げれば、ロマンを感じずにはおれないであろう。この星空をじっと見上げていると、宇宙の彼方のずっとその先に、吸い込まれてしまうような気分になってしまう。



南竜ヶ馬場の夕焼け
この後、空に、満天の星が



大田原市天文館ホームページから

第2幕

迎えてごらん ご来光を



第二日目午前3時起床。昨晚、みんなで感動した満天の星空が今なお輝き続けている。ヘッドランプで足元を照らす男二人（山村、鍋島）。1時間の急登の末、展望コースの尾根・アルプス展望台に到着。

山シャツの上に、フリースと更に防寒具を重ね、冷たい風を避けるためにハイマツの陰に身を寄せる（下界の猛暑は白山までは届かない）。

太陽が昇るはずの北アルプス方向は、雲に覆われている。北アルプスの展望は期待できない。ただその雲の上は、青空のようだ。ワクワクしながら、我が太陽が顔を出すのを待つ。

その雲が徐々に赤みがかってきた。間もなくだ。そして、遂に。

ご来光！

ああ 何と清々しい気分なのだろうか



日の出直後の荒島岳

第3幕



見つめてごらん 白山の高山植物を

「名峰白山、何が素晴らしいか」

「そりゃ、花でしょう、高山植物の宝庫だよ」

展望コースを室堂に向けて歩く。

登山道の脇にカラマツソウ。左をむけば、朝日に踊るハクサンコザクラ。眼を前に向ければ、朝日に輝くクロユリ。きれいな花、かわいい花が、いきいきとした花が、次々に飛び込んでくる。

数株ずつ咲いているものもあれば、ハクサンコザクラの大群生もある。花を見つめ、花に見つめられ、「オオッ」「オオッ」と感嘆の声。

カメラマンの心は躍る。パチリパチリ、シャッターを押す指がとどまることがない。



展望コースに限らず、白山はどこを散策しても花いっぱい季節だった。





⑦



⑧



⑨

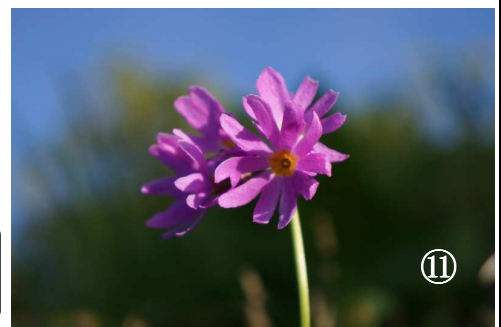
きれいだ！

かわいい！



⑩

白山の高山植物
の種類、幾つあ
るの？



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



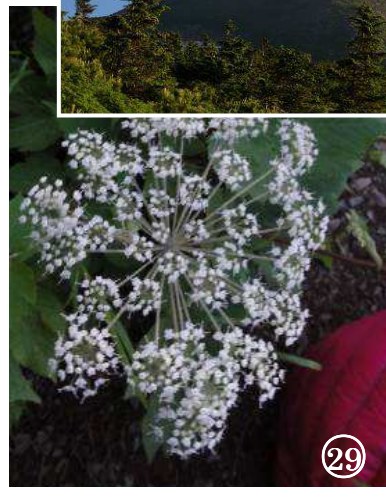
⑲



⑳



㉑



花の楽園とは白山のようなところをいうのかな



第4幕



登ってごらん 大汝峰を



百姓池と大汝峰



大汝峰頂上の大汝神社

大汝峰

白山に行き頂上を目指す場合、足は自然と御前峰に向かう。白山の頂上＝御前峰というのが一般的なイメージであろう。大賑わいの御前峰に比べれば、一緒に並んでいる大汝峰がちょっと可哀そう。

今回の PW 参加のメンバーも御前峰は何度も登っているが、隣の大汝峰への回数は少ない。…ということで、今回のメンバー



(大汝峰頂上から) ミドリヶ池 剣ヶ峰 御前峰

の足は自然と大汝峰方向に向かう。

登ってみて感じたな。大汝峰って、良いじゃないか。頂上の大汝神社に静かに頭をたれ、人影も少ない広い頂上で、展望を堪能。

大汝に登ればこそ見ることができる絶景もある。それは上の写真の風景だ。

第5幕



堪能してごらん 北アルプス遠望を

大汝峰に向かって、最後の詰めをしている時に、山村さんが後を振り返って、「オー」と歓声を上げた。北アルプスの遠望が見えたのだ。



御岳

立山

ご来光の折、北アルプスは雲の下であった。今日は見えるとは思っていなかった。まさに突然の出会いだ。

乗鞍 御岳も見えたぞ

北アルプスの遠望の更に右方向に、乗鞍岳、御岳も見ることができた。



槍ヶ岳

大キレット

穂高連峰

第6幕

登ってごらん 別山に

第二日目の行動は自由ワンデリング。結果的には、3 グループに分かれての行動(2頁『行程概略』参照)。

その一つが、別山往復だ。メンバーは島林さんのみ。単独行だ。今シーズン既に白山登山を実行し、御前峰方面を歩いたとのことで、今回は、別山を選んだようだ。

彼の感想によれば、『別山最高!』とのことで、別山の虜になった模様だ。



天池の日の出



御手洗池と別山

別山平は一面のニコウキスゲ



特別寄稿

若い頃は奨学金で今は年金で山登り

今回も白山南竜PWは、ほぼ平均70歳の高齢者ばかり。でも元気だよ。そう年寄り扱いをするなよ。

俺達も半世紀前は若かった。金大ワングル部所属。勉強もほどほどに、クラブ活動に熱中。日本育英会の貴重な奨学金を教科書代・参考書代ではなく、そのほとんどを山行き資金に投じてしまった輩だ。

サラリーマン時代は山も忘れ、心身を削りながら厳しい仕事とお酒に専念。ただ幸いなことに、定年退職時には、身体を壊していなかったこと、借金をしていなかったことが良かったな。

高齢者の仲間入りした彼は、今何をやっているのだろうか。貴重な年金を使って、再び山登りだ。

ある日の夕方、奥多摩の登山口(五日市駅/東京都)で、家路を急ぐワーキングウーマンが呟いている。

『あのおじさん達、下山して、一杯飲んだよね』

『悩まないのかな。楽しそうね』

『私達、忙しいのよ。遊ぶ時間もお金もないわ』

『私達、将来年金貰えるかしら』

現役組のそんな冷たい視線、思いも理解できないわけではない。ただ、俺達は登るぞ、続けるぞ。体そのものの健康もさることながら、ボケ防止には山登りが最適…と言訳を心に秘めながら。あと10年くらいは登りたいね。せめて東京オリンピック位までは登るぞ。その意味を込めて、東京五輪のマークをもじったのが、下のマークだ。

東京五輪の2020年も山登りだ

振り返ってみれば、前回の東京オリンピックの時(1964年)は、ワングル1年生だった。次回東京オリンピックは、ワングル最終学年か…。



《マークにつき、少々解説》

- ① 槍ヶ岳から登る朝日(2012年8月8日笠ヶ岳小屋)
- ② ワングルらしく「continue wandering」にしようと思ったが、認知症の徘徊(wander)のイメージに誤解されても困るので、やむなく「climbing」とした。

あるワンダラーNabeshimaの呟きでした。ご勘弁を。

第7幕

 鍛え直してごらん 我が老体を

最高齢は合津さん。しかし肉体的には最も若い感じだ（頭脳・気力面もそうでしょう）。

頑健な合津リーダーが、花よ蝶よと育てられた貧弱な身体の新入部員を鍛えている…そんな50年前の新トレ風景を思いおこす場面が、今回の白山南竜PWにも見られた。

(1) 休憩場所

新人：《この中飯場は休憩に最適の場だ。休憩だろうな》と心の中で期待。

合津：休憩の気配、全くなし。

新人の期待は見事に裏切られ、中飯場で休むこともなく通過だ。

(2) 休憩タイミング

新人：「熱中症対策にこまめに水が必要だ」と暗に休憩を催促する声を出す。

合津：「もっと先に、良い休憩所があるぞ」

休憩も逸して、その先の万才沢まで進む。

合津さんは、今なおマラソン大会（フルマラソン、ウルトラマラソン）、テント泊の南アルプス縦走、農作業…をやっている。その所為か、いまだに若々しい。

俺も体づくりやるぞ

さて俺達も、健康寿命を一層継続するためにも、日常的に積極的に体づくりをしなければならないね。高齢者向けのラジオ体操、ストレッチ、頻繁な山歩き……。KUWVの現役時代に鍛えた財産（体力）は、サラリーマン時代に使いつづけているからね。

最長老の軽快なステップ！



第8幕

 取り戻してごらん 山男の輝きを

砂防新道では、登り下りの登山者で一杯だ。狭い登山道なので、すれ違いのために道をお互いに譲り合う。

すれ違いの登山者を観察してみると

☆小さな子供連れ家族 ☆山ツアーグループ

☆山ガール達（年齢不詳）

☆夫婦（らしき） ☆恋人達（らしき）

☆九州からのおばさん二人組

逆に我がパーティもしっかり観察されているようだ。心の中では次のように感じているのかも。失礼にも、正直に声を出して言う者もいる。

★ウワッ、男ばかりのグループだ

★しかも高齢者軍団だ

★何のグループなのかな。不思議な人種だ

★ちょっと異様かもね

それにしても、山ガール（もどき）がもてはやされ、ヤマジージはなぜ拍手されないの。山男軍団は山に似合わない存在になってしまったのだろうか。輝きを失ったのだろうか。



ヤマジージ 自信を持って十分に輝いているよ

わが身を省みて、変えるべきところは変えるよ。ただ、半世紀も続く山男軍団だ。どのように観察されようが、我らは楽しい山仲間。この山男仲間はこの世から消失させないよ。来年もこの《ヤマジージ》スタイルで、白山にやってくるぞ。

第9幕

見習ってごらん先輩のおもてなしを

昨年の PW 報告レポートにも記載したが、今年も同じような《もてなし》の構図が見てとれた。

①朝の目覚めのコーヒ、行動中のコーヒ、夜のミーティングでのコーヒ、②行動後のそうめん、③差入れのメロン…おもてなしをするのは、昨年同様先輩の方達だ（下の写真参照）。

若手の9期達は、今年も進歩はみられず、先輩に甘えるばかり。先輩に、ポンポンと何かと注文をつける。合津先輩から『そうめん』のおもてな

しをいただいた時には、『薬味は…』とせがむ。厚かましい態度は相変わらずだ。

この際、報告レポートの紙面をお借りして、申し上げます。

「先輩のみなさん、ありがとうございます。心から感謝しています。尊敬しています」

「私達は、次々と減らず口をたたくばかりです。申し訳ありません。反省しています」

(追) 影の声

(先輩方) 9期奴らはいつも感謝・反省を連発するが、付きあって半世紀の間できなかったことを今更期待できないね。

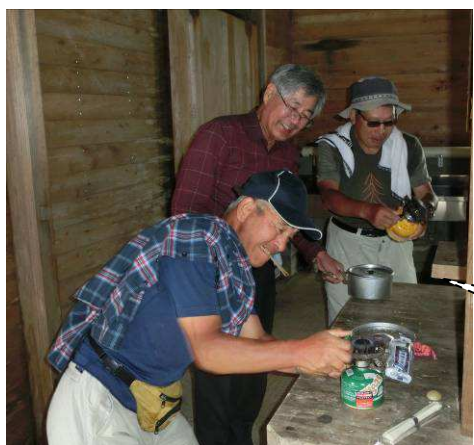
(9期生) そうですね。半世紀もお世話になっています。このまま後10年くらい、よろしくお願いします。



休憩時間中も後輩達のために、おもてなし準備の二人（合津 伊豫）



美味しい食材を冷やすために、雪溪の雪を集める合津先輩。後輩達はただただポケットに手を突っ込み眺めるばかり。先輩の模範行動も後輩には手本にならず。



おもてなし講座『そうめん料理』を特訓受講中の若手。島林さんの言によれば、白井さんの手つきは相当なレベルらしい。老後の自活は心配いらないね。



伊豫先輩はいろんな場面でおもてなし精神を発揮。だから後輩からも親切にされるようだ。

第14期の仁藤さん(旧姓：矢津さん)から伊豫さんにメロンが差し入れられた。(左写真)

おもてなし NO1! この写真、ちょっとこわ面だが、本当はやさしい山男



(私達 食べる人)

美味しいメロンだ 仁藤さん ありがとう

第10幕

 覚えてごらん 白山の花の名を

「馬の名前も知らないで、馬券を買うな」「その馬に賭けるのなら、馬の名前くらい覚えろよ」…その昔、組合の多趣味の専従書記長が、馬の名も知らないで馬券を買いに行く若い組合員を叱っていたね。

素晴らしい縦走路のお花畑で、「この花の名前、知っているか」と、よく聞かれるね。返事は「エーと」。

花の名、馬の名は知らないが

名前を知らなくても、きれいなものはきれい。名が分からなくても、縦走路の高山植物を見れば、心楽しくなるよ。感動もするよ。(馬の名前が分からなくても、勝ち馬の予想はできるよ。当たるよ。)

勝手な屁理屈をいうおじさんだが、勤めていた

頃は、お客の名、顔…を必死に覚えたな。確実に覚えたよ。花名はダメだが。

さて、馬自身や花自身はどう思っているのだろう。

「精一杯は走っているのだよ、君の馬券が的中するように。せめて、俺の名前くらい覚えてよ」

「この短い夏の一時期だけ、一生懸命に咲いているのよ、あなたを励ますために、感動させるために。私の名前くらい覚えてよ」…と、馬や花が嘆いているよ。

馬にも花にも立派な名前があるよ。覚えてあげようぜ。年金おじさん達のボケ防止対策としても、すごく有効かも。(すぐに忘れると思うが。)

花に感謝して花の名前を覚えてあげよう!

花の写真提供者のご協力でリスト作成

花の検定問題

この報告書(記録)に、今回の白山南竜 PW で見た花の写真に番号を付けて、掲載してあります。その花名リスト(未完成版)は、右の通りである。

問題 A 花名リストを見ずに、幾つの花名を答えられますか

問題 B 穴埋め問題：花名リストで名前が記載されていない欄に、その花名を記載してください。

問題 C 正誤問題：花名リストで名前が正しくない場合、正しい名前を記載してください。

お願い

この PW に参加したかどうかに関係なく、この報告書(記録)に眼を触れた方に、お願いします。

- ① 上の花の問題 B、C に、お答え願います。
- ② この報告書(記録)の読後感をお知らせ願います。

答え先：nabeshima2828@nifty.com (鍋島武)

《花名リスト》(未完成版)

- | | |
|-------------|---------------|
| ① カラマツソウ | ⑪ ニッコウキスゲ |
| ② ハクサンコザクラ | ⑫ |
| ③ クロユリ | ⑬ ハクサンフウロウ |
| ④ イワギキョウ | ⑭ カラマツソウ |
| ⑤ ヨツバシオガマ | ⑮ クモマニガナ |
| ⑥ ベニバナイチゴ | ⑯ シモツケソウ |
| ⑦ アオノツガザクラ? | ⑰ エゾシオガマ |
| ⑧ ナナカマド? | ⑱ オタカラコウ |
| ⑨ イワカガミ | ⑲ シナノキンバイ |
| ⑩ クロユリ | ⑳ ウズラバハクサンチドリ |
| ⑪ ハクサンコザクラ | ㉑ ハクサンボウフウ |
| ⑫ ハクサンコザクラ | ㉒ ミヤマダイモンジソウ |
| ⑬ ハイマツ | ㉓ ハクサンシャクナゲ |
| ⑭ コバイケソウ | ㉔ トラノオ |
| ⑮ ハクサンコザクラ | ㉕ ウツボグサ |
| 群生 | |
| ⑯ チングルマ | |
| ⑰ ゴゼンタチバナ | |
| ⑱ ハクサンフウロ | |

以上で、白山南竜 PW 報告終了です